

平成22年度公共事業再評価対象事業調査

1 事業の概要

事業名	道路事業 小川通（小川工区）	事業所管課	建設局道路建設部道路建設課
事業区間	自:京都市上京区中小川町 地内 至:京都市上京区上小川町 地内	延長又は面積	延長 270m 幅員 9.5～11.5m
事業概要 本事業は、現道の両側に民家、事業所等が密集、連続する旧市街地の一面において、小川通とこれに隣接する普通河川小川の廃川敷地を一体的に活用し、道路拡幅及び歩道整備を行うことにより、地域交通の安全確保と市街地における土地の有効活用を図るものである。			

2 事業の必要性等に関する視点

【事業の進捗状況】

都市計画決定	平成 年度	事業採択年度	昭和55年度	用地着手年度	昭和55年度
工事着手年度	平成22年度	完成予定年度	当初 昭和58年度 変更 平成24年度		
年度	全体事業	平成20年度以前	平成21年度	平成22年度	平成23年度以降
工事	L= 270m C= 55 百万円	L= m C= 百万円	L= m C= 百万円	L= 140m C= 25 百万円	L= 130m C= 30 百万円
用地	A= 805 m ² C= 362 百万円	A= 699 m ² C= 282 百万円	A= m ² C= 百万円	A= m ² C= 百万円	A= 106 m ² C= 80 百万円
その他	C= 7 百万円	C= 2 百万円	C= 5 百万円	C= 百万円	C= 百万円
計	C= 424 百万円	C= 284 百万円	C= 5 百万円	C= 25 百万円	C= 110 百万円
進捗率 (累積)	- (前回再評価時)	66.9%	68.2%	74.0%	100%

事業の進捗状況

- ～H20 用地取得
- H21 詳細設計
- H22 工事着手, 用地取得交渉 (残1件)

当初計画に比べて事業が遅れた理由

当初計画においては、車線増及び歩道新設を行う計画であったが、通過交通の増加により地域の交通安全が確保されないとの懸念が地元から示され、事業が推進できなかったため、休止状態となった。

【事業を巡る社会経済情勢等の変化】

休止状態の期間、廃川敷において、違法駐車車両が増加したことや、地元から歩道整備の要望が上がってきたため、道路整備事業に再着手した。

【上位計画から見た事業の有効性】

京都市基本計画		事業ごとの上位計画	具体的な効果等
大項目	小項目		
<input type="checkbox"/> 安らぎのある暮らし <input checked="" type="checkbox"/> 華やぎのあるまち <input type="checkbox"/> 市民との厚い信頼関係の構築をめざして	市民の暮らしとまちを支える基盤づくり		歩行空間の形成

【指標による評価】

客観的評価指標	評価結果	
事業採択についての条件を確認するための指標	事業の投資効果 (費用便益分析)	B/C = - 歩道整備について、費用便益分析算定マニュアルがないため。
	事業の要件	指標該当状況：有・無
事業の効果や必要性を評価するための指標	評価軸に対する該当状況：3 / 5	

3 事業の進捗の見込みの視点

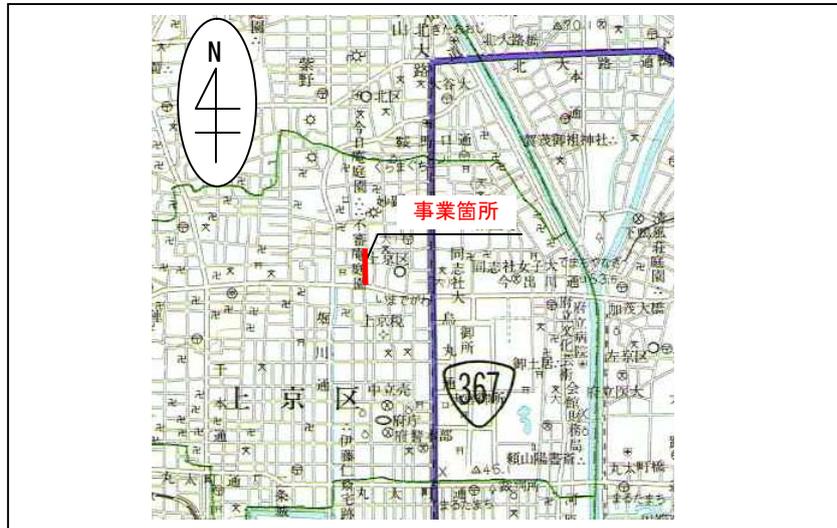
【事業の実施のめど、進捗の見通し等】

<ul style="list-style-type: none"> ・未買収地については、残り1件であり、引き続き交渉を行い、事業への理解を求める。 ・用地買収済みのL=140m区間において、平成22年度に工事着手する。

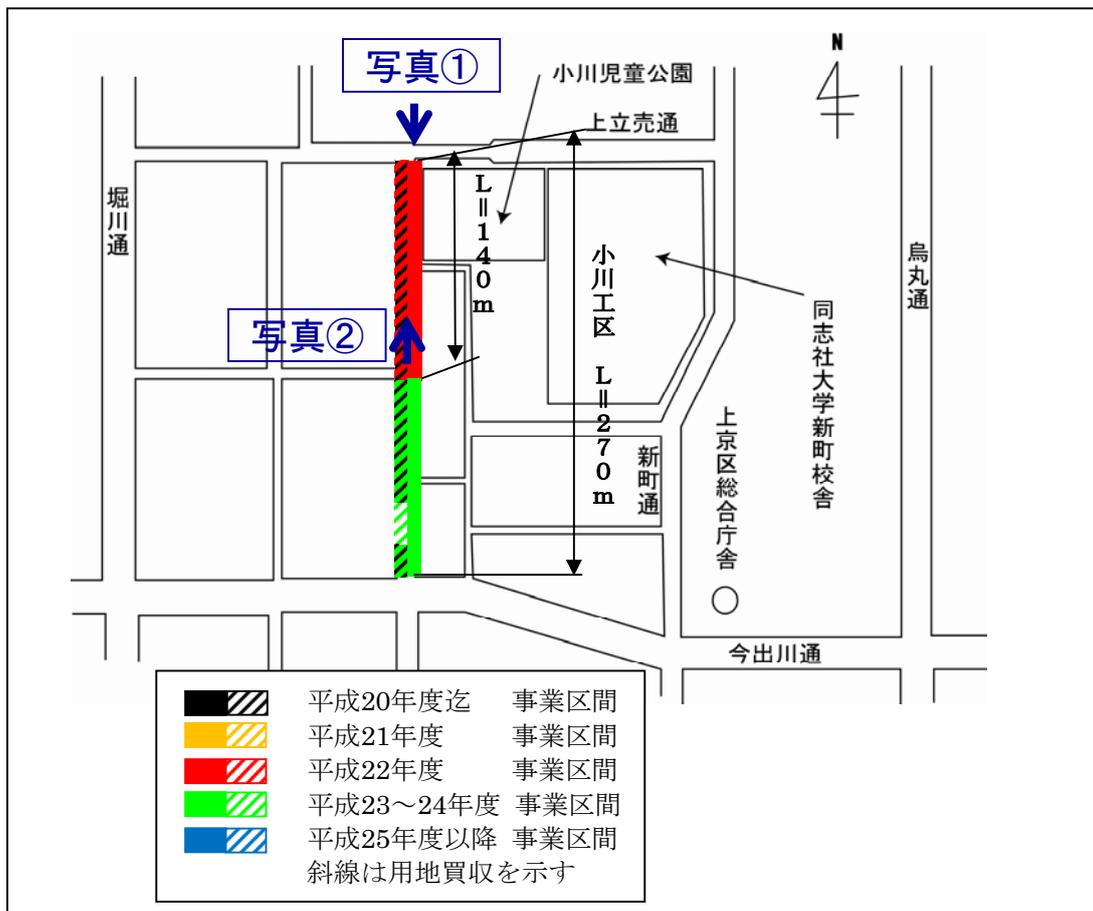
4 対応方針案

対応方針	継続, 中止, 休止
理由	廃川敷を活用した道路整備を行うことにより地域の環境整備を図れること及び買収済み区間において、本年度に工事を実施することから、事業継続は妥当であると考え。

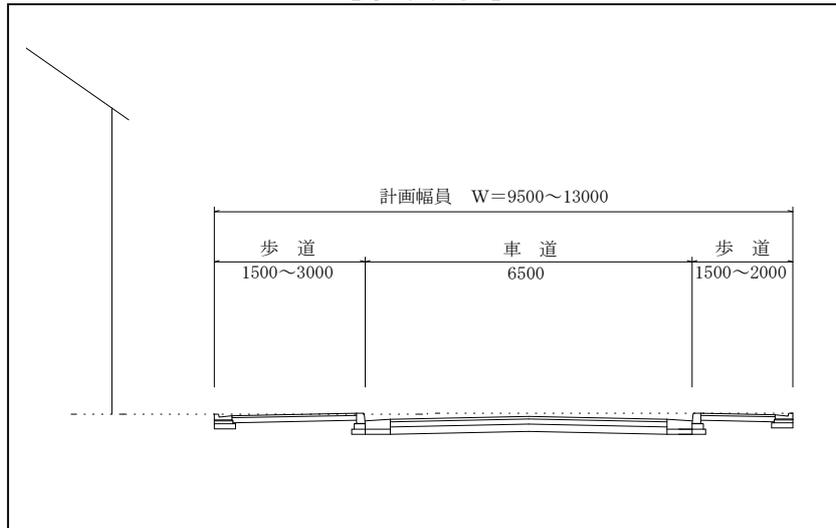
[箇所図]



[模式図]



[事業概要]



[写真]

写真①



写真②



客観的評価指標（道路事業）

【事業の要件】

環境・景観への配慮事項	歩道の舗装を透水性舗装とすることで雨水の浸透を促進させ、歩行性の改善に寄与し、適切な植栽の配置を行う等、環境に配慮した。
市民と行政のパートナーシップ	設計時から地元説明会を開催し、住民意見を反映しながら事業を進めている。

【事業の必要性】

	評価項目	評価指標	該当状況
誰もが安心して暮らせるまちづくり	環境への負担の少ない持続可能なまちをつくる	<input type="checkbox"/> 対象道路の整備により自動車からのCO2排出量が削減される <small>（対象道路の整備により削減される自動車からのCO2排出量）</small> 削減量：____t/年（整備前：____t/年→整備後：____t/年） <input type="checkbox"/> 現道等における自動車からのNO2排出量が削減される <small>（並行区間等における自動車からのNO2排出削減率）</small> 削減量：____t/年（整備前：____t/年→整備後：____t/年） <input type="checkbox"/> 現道等における自動車からのSPM排出量が削減される <small>（並行区間等における自動車からのSPM排出削減率）</small> 削減量：____t/年（整備前：____t/年→整備後：____t/年） <input type="checkbox"/> 現道等で騒音レベルが夜間要請限度を超過している区間について、新たに要請限度を下回ることが期待される区間がある <input type="checkbox"/> 保存すべき貴重種等生物の生息環境に対して影響性は低い（生態系の保全に配慮） <input type="checkbox"/> 地域の環境づくりやまちづくり方針との整合性を有している	—
	災害に強く日々のくらしの場を安全にする	<input type="checkbox"/> 近隣市へのルートが1つしかなく、災害による1～2箇所の道路寸断で孤立化する集落を解消する <input type="checkbox"/> 対象区間が、市地域防災計画、緊急輸送道路ネットワーク計画又は地震対策緊急整備事業計画に位置づけがある、又は地震防災緊急事業五カ年計画に位置づけのある路線(以下「緊急輸送道路」という)として位置づけあり <input type="checkbox"/> 緊急輸送道路が通行止になった場合に大幅な迂回を強いられる区間の代替道路を形成する <input type="checkbox"/> 現道等の防災点検又は震災点検要対策箇所もしくは架替の必要のある老朽橋梁における通行規制等が解消される <input type="checkbox"/> 現道等の異常気象時規制区間、事前通行規制区間、特殊通行規制区間又は冬季交通障害区間を解消する <input type="checkbox"/> 避難路へ1km以内で到達できる地区が新たに増加する <input type="checkbox"/> 幅員6m以上の道路がないため消火活動ができない地区が解消する	—

	評価項目	評価指標	該当状況
誰もが安心して暮らせるまちづくり	日常生活における身近な安全や安心を確保する	<input type="checkbox"/> 現道の踏切道において、踏切交通遮断量 $\geq 2,000$ 台時/日でかつ次のいずれかに該当する。 ・踏切道における車道の幅員と踏切道に接続する車道の幅員との差が1m以上 ・踏切道における歩道の幅員が踏切道に接続する歩道の幅員未満 ・鉄道と道路の交差角が40°未満 ・踏切道に接続する道路の踏切道の両側から10mまでの区間が踏切道を含めて直線でない ・踏切道に接続する道路の踏切道の両側から30mまでの区間の縦断勾配が4%以上 ・見通し区間の長さが道路構造令第29条第3号に規定する見通し区間の長さの1/2以下 <input type="checkbox"/> 自転車交通量が500台/日以上、自動車交通量が1,000台/12h以上、歩行者交通量が500人/日以上に全て該当する区間において、自転車利用空間を整備することにより、当該区間の歩行者・自転車の通行の快適・安全性の向上が期待できる <input type="checkbox"/> 交通バリアフリー法に基づく重点整備地区における特定経路を形成する区間が新たにバリアフリー化される <input type="checkbox"/> 二次医療施設へのアクセス向上が見込まれる <input type="checkbox"/> 現道等に死傷事故率が500件/億台キロ以上である区間が存在する場合において、交通量の減少、歩道の設置又は線形不良区間の解消等により、当該区間の安全性の向上が期待できる <input type="checkbox"/> 当該区間の自動車交通量が1,000台/12h以上（当該区間が通学路である場合は500台/12h以上）かつ歩行者交通量100人/日以上（当該区間が通学路である場合は学童、園児が40人/日以上）の場合、又は歩行者交通量500人/日以上の場合において、歩道が無い又は狭小な区間に歩道が設置される <input type="checkbox"/> 歩行空間ネットワークの整備地区における整備対象路線である	—
	歩いて楽しいまちをつくる	<input type="checkbox"/> 対象区間が電線類地中化5ヶ年計画に位置づけあり <input type="checkbox"/> 市街地又は歴史景観地区（歴史的風土特別保存区域及び重要伝統的建造物保存地区）等の幹線道路において新たに無電柱化を達成する <input checked="" type="checkbox"/> 周辺の自然・景観との調和を保っている <input type="checkbox"/> 歴史的な文化環境との調和が図られている <input checked="" type="checkbox"/> 文化財に対して影響がない（埋蔵文化財調査等が実施済み） <input type="checkbox"/> 景観となりうる道路構造物である（構造美を有する橋梁等）	2/6
魅力あふれるまちづくり	美しいまちをつくる	<input checked="" type="checkbox"/> 対象区間に街路樹が設けられる	1/1
活力あふれるまちづくり	産業関連都市として独自の産業システムをもつ（中心市街地の活性化）	<input type="checkbox"/> 中心市街地へ至る現道（もしくは並行する路線）の混雑度が1.0以上 <input type="checkbox"/> 商業、農林業の振興に寄与する	—
	魅力ある観光を創造する（レクリエーション活動の振興も含む）	<input type="checkbox"/> 観光地・レクリエーション基地と交通拠点間とのアクセスを向上させる <input type="checkbox"/> 主要観光地間相互の到達時間の短縮に寄与する	—
	大学の集積・交流が新たな活力を生み出す	<input type="checkbox"/> 既存の大学・学術研究機関等へのアクセスを向上させる <input type="checkbox"/> 大学施設の整備拡充地へのアクセスを支援する	—

	評価項目	評価指標	該当状況
市街地の交通基盤づくり	個性と魅力あるまちづくり	<input type="checkbox"/> 対象区間が現在連絡道路がない住宅地開発（300 戸以上又は 16ha 以上、大都市においては 100 戸以上又は 5ha 以上）への連絡道路となる <input type="checkbox"/> 当該路線が隣接した市役所・区役所間を最短時間で連絡する路線を構成する <input type="checkbox"/> 現道等における交通不能区間を解消する <input type="checkbox"/> 現道等における大型車のすれ違い困難区間を解消する <input type="checkbox"/> 市役所・区役所へのアクセス向上が見込まれる <input type="checkbox"/> 拠点開発プロジェクト、地域連携プロジェクト、大規模イベントを支援する <input type="checkbox"/> 特別立法に基づく事業である <input type="checkbox"/> 新規整備の公共公益施設へ直結する道路である <input checked="" type="checkbox"/> 計画の各プロセスにおいて関係する地域住民と情報を共有している <input type="checkbox"/> 市街地再開発、区画整理の計画あり <input type="checkbox"/> 主要集落と区役所間の所用時間が 30 分をこえる	1/11
	多様な都市活動を支える交通基盤づくり	<input type="checkbox"/> 現道等の年間渋滞損失時間(人・時間)が削減される。 (並行区間等の年間渋滞損失時間(人・時間)及び削減率) 渋滞損失時間：_____人・時間/年，削減率：_____% <input type="checkbox"/> 現道等における混雑時旅行速度が 20km/h 未満である区間の旅行速度の改善が期待される <input type="checkbox"/> 現道又は並行区間等における踏切遮断量が 10,000 台時/日以上 <input type="checkbox"/> 踏切道の除去もしくは交通改善が期待される <input type="checkbox"/> 現道等に、当該路線の整備により利便性の向上が期待できるバス路線が存在する又は新たなバス路線が期待できる <input type="checkbox"/> 鉄道駅周辺へのアクセス利便を図れる(新幹線駅もしくは特急停車駅へのアクセス向上が見込まれる) <input type="checkbox"/> 京都高速道路、第二京阪道路等の広域幹線と連携したアクセス向上につながる <input type="checkbox"/> 第一種空港、第二種空港、第三種空港もしくは共用飛行場へのアクセス向上が見込まれる <input type="checkbox"/> 重要港湾もしくは特定重要港湾へのアクセス向上が見込まれる <input type="checkbox"/> 農林水産業を主体とする地域において農林水産品の流通の利便性向上が見込まれる <input type="checkbox"/> 総重量 25t の車両もしくは ISO 規格背高海上コンテナ輸送車に対応する <input type="checkbox"/> 広域道路整備基本計画にいちづけのある環状道路を形成する <input type="checkbox"/> 市街地再開発、区画整理等の沿道まちづくりとの連携あり <input type="checkbox"/> 中心市街地内で行う事業である <input type="checkbox"/> 幹線都市計画道路網密度が 1.5km/km ² 以下である市街地内での事業である <input type="checkbox"/> DID 区域内の都市計画道路整備であり、市街地の都市計画道路網密度が向上する	—

	評価項目	評価指標	該当状況
市民の知恵と創造性を生かした政策を形成する	多様な都市活動を支える交通基盤づくり	<input type="checkbox"/> 地域高規格道路の位置づけあり <input type="checkbox"/> 道路の整備に関するプログラム又は都市計画道路整備プログラムに位置づけられている <input type="checkbox"/> 広域物流拠点から高規格・地域高規格又はこれらに接続する自専道のICまでのアクセスが改善される <input type="checkbox"/> 幹線道路ネットワークを形成する <input type="checkbox"/> 対象区間に大型車のすれ違い困難区間が存在する <input type="checkbox"/> 鉄道や河川等により一体的発展が阻害されている地区を解消 <input type="checkbox"/> 関連する大規模道路事業と一体的に整備する必要あり <input type="checkbox"/> 他事業と連携プログラムに位置付けられている	—
	高度情報通信社会に対応できる基盤づくり	<input type="checkbox"/> 情報通信ネットワークの構築を促進する。	—
	市民の知恵と創造性を生かした政策を形成する	<input type="checkbox"/> 審議会、委員会を通じ地元意見を反映させ事業を進めている <input type="checkbox"/> 計画段階から市民参加により事業を進めている	—